

タンゴとサッカーの国・

アルゼンチン

9月15日（金）に高岡公民館で、国際理解出前講座「タンゴとサッカーの国・アルゼンチン」を開催し、21名が参加しました。

講師は、大谷アリシアさんです。アリシアさんは、1歳から結婚するまでの約20年間、アルゼンチンのブエノスアイレス近郊で過ごしました。アルゼンチンはサッカーが盛んであるため、サッカーのユニフォームを着て講座を行いました。



ブエノスアイレスの地理、民族、歴史、観光地、食べ物などについてパワーポイントで説明がありました。ブエノスアイレスは、ヨーロッパからの移民が多く、「南米のパリ」と呼ばれるほどヨーロッパ風の建築物が多く見られるそうです。料理もイタリア料理の影響が強いそうです。

また、公用語であるスペイン語のミニ講座がありました。日本語に似た発音で、スペイン語の意味が全く違うものとして、“バカ（牛）”と“アホ（にんにく）”などの面白い言葉がありました。

音楽はタンゴが有名で、「さらば草原よ」というタンゴをCDにあわせて参加者みんなでいっしょに歌いました。

講義の後、マテ茶の茶道具やアルマジロの甲羅で作られた弦楽器チャランゴなどを実際に手に取って、講師と交流しました。

アルゼンチンは、日本から見るとちょうど地球の反対側にあたり、日本から飛行機で27～30時間かかります。しかし、日本との関わりは深く、日本人移民を温かく迎えてくれた国です。この講座を通して、アルゼンチンのことを少しでも身近に感じ、興味を持つきっかけとなれば、幸いです。

